

1 審議事項

- (1) 次期「あいち はぐみんプラン」の数値目標について
 (2) 次期「あいち はぐみんプラン」の取組方向について

2 主な意見等

※括弧内は計画の基本施策

(1) 県立高等学校のインターンシップ（1 キャリア教育の推進）

○2018年度に20,279人という数値は、県として不足しているということか。すでに定着しており、ありかたを見直す時期ではないか。

○質に関する目標を記載してはどうか。

→・「あいち はぐみんプラン 2015-2019」及び「あいちの教育ビジョン 2020」で掲げている18,000人を達成しており、目標から削除。

今後は、質的な充実を図る必要があるが、個々の生徒により必要となるキャリア教育は異なり、質について目標とすることは困難と考える。

(2) 若年妊娠（3 思春期保健対策の充実）

○支援につながりにくいので、取組を記載してはどうか。

→・取組に「予期せぬ妊娠や思春期の性の悩みに応じる愛知県女性健康支援センターや県保健所を始めとした相談窓口の周知に努める」と記載。

(3) 養育に関する知識（3 思春期保健対策の充実）

○義務教育中に胎児に関することを始め、養育に関して知る機会があるといいのではないか。

→・取組に「学校等関係機関と連携し、妊娠・出産等に関する健康教育を実施する」と記載。

(4) 男性の育児休業（6 働き方改革とワーク・ライフ・バランスの推進）

○取得率だけにとらわれず、1か月や2か月取得できるような取組や目標を検討してはどうか。

→・男性の育児休業取得率は4.6%と、約20人に1人が取得している状況であり、まずは取得率の上昇を目標とする。

(5) 子育て世代包括支援センター（8 妊娠・出産期からの切れ目ない支援の充実）

○質の向上についても記載してはどうか。

→・取組に「子育て世代包括支援センターの市町村における設置推進及び充実強化のための研修会を実施する」と記載。

(6) 子育て支援員（9 保育の受け皿拡充と保育人材の確保）

○研修の回数や研修参加者数に関して記載してはどうか。

→・取組に「地域の実情やニーズに応じ、育児や職業経験など多様な経験を有する人材を子育て支援員として養成するため、市町村と協力して研修を実施する」と記載。

2 主な意見等（続き）

(7) 延長保育（10 多様な保育サービス、児童の放課後対策の拡充）

○子ども目線では、保護者と一緒にいる時間が長い方が良いと思うので、「延長保育を推進する」という表現は検討が必要ではないか。

→・目標から「延長保育の実施箇所数」を削除。

取組に「多様な就労形態に合わせた保育が提供されるよう市町村に働きかける」と記載。

(8) 放課後児童クラブ（10 多様な保育サービス、児童の放課後対策の拡充）

○小学校内での実施を目指すことについて、県の福祉局と教育委員会が連携し、市町村に働きかけてはどうか。

→・取組に「放課後子ども総合プラン推進委員会を設置し、福祉局と教育委員会が連携して新・放課後子ども総合プランの充実を図るとともに、市町村においても福祉部局と教育委員会の連携が進むよう働きかける」と記載。

(9) ネット依存（14 青少年の育成）

○ネット配信を始め、ネット依存に対する取組を記載してはどうか。

→・取組に「インターネット利用をめぐる青少年の取り巻く環境が急速に変化しているため、流行・環境の変化の速さに対応した広報啓発を行う」と記載。

(10) 虐待（15 児童虐待防止対策の推進）

○義務教育の間に、どのようなことが虐待であるかが分かるようなDVDを使って教育をしてはどうか。

→・児童虐待防止の啓発の取組として、「県は市町村と協力して、オレンジリボン・キャンペーンを実施します」と記載。このキャンペーンの一環として、子どもへも、どのようなことが虐待であるかが分かるようなリーフレットによる啓発を実施。

(11) 里親（16 社会的養育の体制整備）

○専門性を必要とする里親の増加について記載してはどうか。

→・取組に「里親登録研修を休日に開催するなど、里親登録希望者が参加しやすい研修体制を整える。また、養育技術の向上を目的とした研修を実施する」と記載。

(12) 外国人（18 外国人の子どもへの支援）

○日本語学習の充実として、ひらがなだけがわかる外国人が読んでもわかるパンフレット等の作成について記載してはどうか。

→・取組に「外国人県民に対する生活情報や行政情報に関する多言語の出版物の作成を推進するとともに、難しい単語を避け、一文を短くするなどの配慮をした「やさしい日本語」の普及に取組む」と記載。

2 主な意見等（続き）

(13) 災害対策（20 安心できるまちづくり）

○子どもに関わる施設や環境についての災害対策について記載してはどうか。

→・取組に「児童向け防災啓発用パンフレットの配布や小中学生を対象とした少年消防クラブ（BFC）の活動等を通じて子どもの防災意識の向上に努める」と記載。

(14) 全体に関すること

○現計画の5年間で前進したポイントを明確にした上で、次期計画はこうするという記載をしてはどうか。

→・各基本施策に「前プラン計画期間（2015年から2019年まで）の取組」を記載。

○難しい用語は解説等を加えるなど、誰に向けた計画なのかを明確にした上で、わかりやすい言葉で記載してはどうか。

→・脚注などで対応。

3 会議後にいただいた意見等

※括弧内は計画の基本施策

(1) 生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもの学習支援事業

(11 子どもの貧困・ひとり親家庭への支援)

○目標の「生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもの学習支援事業の参加者数」について、参加者数ではなく市町村数としてはどうか。

→・目標を「生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもの学習支援事業の実施市町村数」に変更。

(2) 子どもアドボカシー（16 社会的養育の体制整備）

○サービスを利用している子どもの声を反映させるため、子どもアドボカシーについて記載してはどうか。

→・取組に「子どもの権利を擁護する仕組みとして、児童相談センターや施設等から一定の独立性を持つ第三者機関等における審議・調査や、子どもの意見表明を代弁する意見表明支援員の配置（子どもアドボケイト）について、国のモデル事業の実施状況等の結果を踏まえ、今後検討を行う」と記載。

(3) 障害のある子どもと保護者の地域とのつながり（17 障害のある子どもへの支援）

○障害のある子どもと保護者の地域とのつながりが希薄にならないような取組を記載してはどうか。

→・取組に「障害のある子どもの自立と社会参加を目指し、特別支援学校の小学部、中学部高等部の発達段階や障害特性に応じた、一貫したキャリア教育を推進する。また、関係機関と連携した就労支援で、障害のある生徒の学校生活から社会生活への円滑な移行を図る」と記載。